

地域に親しまれる臨港道路七ツ島線の の取り組みについて ～まちと人を繋ぐ架け橋～

浦丸 真喜夫¹・進藤 琢磨¹・松岡 由泰²

¹九州地方整備局 唐津港湾事務所 保全課 (〒847-0861 佐賀県唐津市二タ子3丁目214番地6)

²九州地方整備局 唐津港湾事務所 工務課 (〒847-0861 佐賀県唐津市二タ子3丁目214番地6)

臨港道路七ツ島線は、貨物輸送の効率化や周辺道路の渋滞緩和を目的として、2009年度より整備を行い、2022年度開通予定である。本稿では、臨港道路の整備を行う中で地元や市外の人々からも末永く親しみ愛される施設になって欲しいとの思いの中、橋の名称やデザインについて、完成に至るまでの取り組みを報告する。

キーワード 臨港道路七ツ島線、七ツ島大橋、橋梁名称審査委員会、デザインパネル

1. はじめに

伊万里港は、佐賀県北西部にあたる伊万里湾の湾奥部に位置し、波静かな天然の良港として知られ、古くから肥前陶磁器の積出港として、また、大陸の玄関口としても重要な役割を果たしてきた。現在では、七ツ島工業団地や伊万里団地など、佐賀県最大の工業団地が立地する工業港であるとともに、東アジアとの外貿コンテナ航路網を有する西九州地域のコンテナ貨物の取扱拠点となっている。図-1

本稿は、伊万里港七ツ島地区における臨港道路整備に当たり、交通・輸送手段としてのみならず、まちと人をもつなぐ地域で親しまれる施設を目指し、整備の中で実施した橋梁名称の選定やデザインへの取り組みについて報告する。

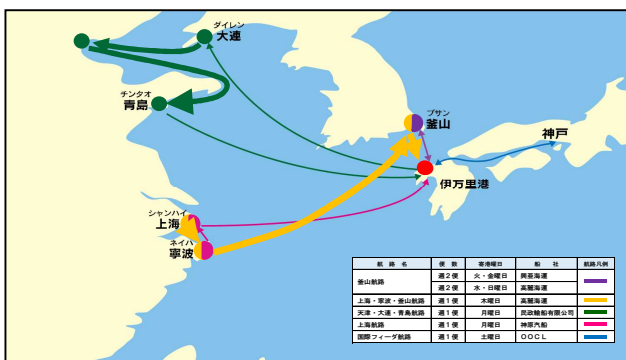


図-1 伊万里港コンテナ航路

2. 臨港道路七ツ島線の概要

臨港道路七ツ島線は、伊万里港の七ツ島工業団地や国際コンテナターミナルと国道204号を結ぶ片側1車線、橋梁部431mを含む延長977m(1,026m)の臨港道路である。増加傾向であるコンテナ貨物の荷役能力向上のための岸壁等の整備とともに伊万里湾によって東西に分断されているふ頭間の円滑な物流を確保し、周辺道路の渋滞緩和を図るために、2009年度より整備を開始し、2022年度開通予定としている。図-2

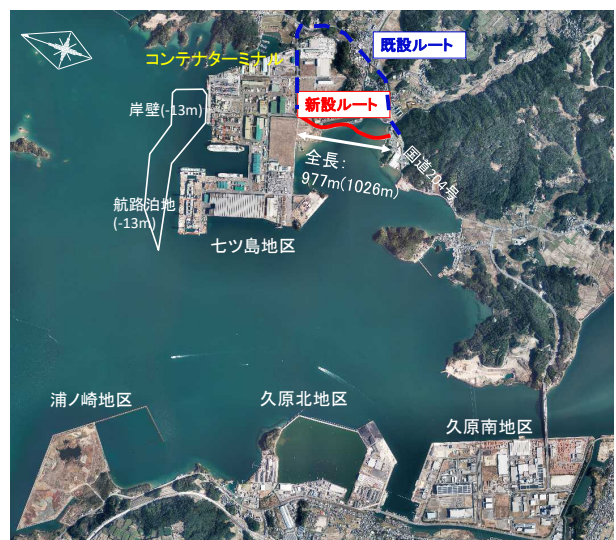


図-2 整備事業概要図

3. 橋梁名称とまちづくり

(1) 橋梁の名称

現代の橋梁づくりにおいては、架設する土地の地域性が、橋梁デザイン面や名称に組み込まれる傾向にある。これによって、地域生活者の交通などの利便性を高めつつ、地域に親しまれる橋としての認識を視覚的・精神的に結びつける。このことから橋梁の名称の由来は、大きく下表の5つに分類できる。表-1

この5つの分類から佐賀県伊万里市内の橋梁名称を見た場合、土地、河川のほか、地域情報が橋梁名称に含まれている。

ここで、表-2に記載した七ツ島地区周辺の橋を5つに分類し図-3に示す。

表-1 橋梁名称の分類

(1) 橋が架けられた土地の名前から命名
(2) 橋が架けられている河川名から命名
(3) 橋の名前に地域の特徴を入れて命名
(4) 橋に込めた思いから命名
(5) 地域にまつわる事柄と結びつけた命名

出典：四方紅美代&長谷川明（2005）をもとに筆者ら作成

表-2 七ツ島地区周辺の橋梁名称

橋梁名称	所在地	長さ(m)	幅員(m)	分類番号	架設年
香椎橋	伊万里市山代町	22	20	1	2014年
佐用姫橋	伊万里市山代町	35	15	5	2014年
佐用川大橋	伊万里市山代町	43	13	2	2014年
谷口大橋	伊万里市南波多町	248	10	1	2013年
新黒塩川橋	伊万里市黒川町	22	22	2	2006年
新真瀬ヶ浦橋	伊万里市瀬戸町	40	22	1	2006年
瀬堂橋	伊万里市脇田町	11	10	1	2004年
伊万里湾大橋	伊万里市瀬戸町	651	21	4	2002年
川久保橋	伊万里市脇田町	31	17	1	2002年
明神橋	伊万里市脇田町	9	18	5	2001年
牧島橋	伊万里市瀬戸町	100	22	1	2000年
番所大橋	伊万里市山代町	145	7.5	5	1999年
伊万里津大橋	伊万里市二里町	94.5	22.8	3	1986年
相生橋	伊万里市伊万里町	47.8	10	4	1973年
松島橋	伊万里市二里町	18.6	10	1	1974年
二里大橋	伊万里市二里町	62.9	8	1	1972年

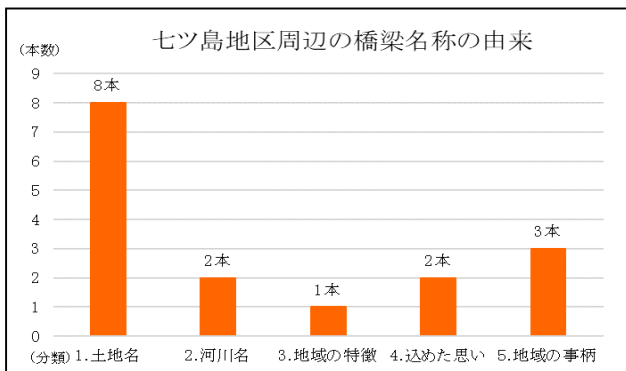


図-3 七ツ島地区周辺の橋梁名称の分類

図-3から七ツ島地区周辺の橋梁名称の由来を見ると、「(1)橋が架けられた土地の名前から命名」が大半を占めていることがわかる。本件においては、交通・輸送手段としてのみならず、地域生活者に未永く親しみ愛される施設となるように「(4)橋に込めた思いから命名」することとし、一般公募にて橋梁名称を選定することとした。

(2) 橋梁名称公募

2021年9月に住民、市民団体、港湾関係者及び行政機関等で構成する橋梁名称審査委員会を立ち上げ、1ヶ月間、佐賀県広報紙、伊万里ケーブルテレビ、伊万里市及び当事務所のHPにおいて、橋梁名称一般公募を実施した。

一般公募の結果、応募総数は179件、橋梁名称数は131件となった。応募者数の居住地内訳としては、佐賀県内が94%、内、地元の伊万里市内からは76%であった。図-4

年代別に見てみると、20歳未満が全体の56%（うち小学生63%、中学生32%）であり、若い世代からの応募が大半を占めていた。図-5

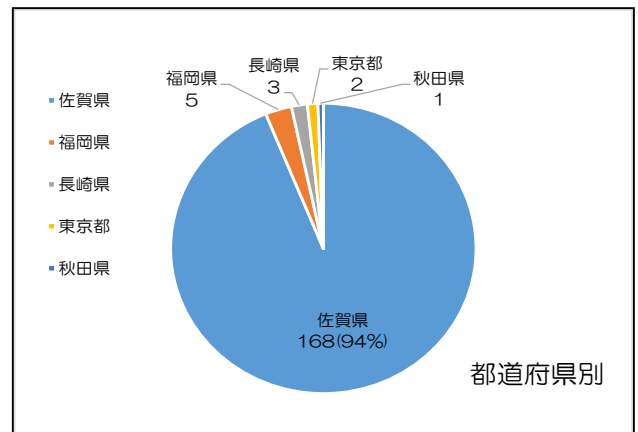


図-4 都道府県別の内訳

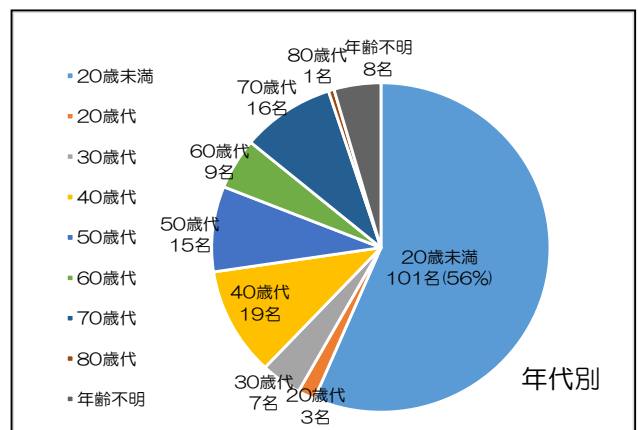


図-5 年代別の内訳

応募があった代表的な橋梁名称は表-3のとおりとなり、七ツ島や黒川といった土地の名前が含まれた橋梁名称が上位を占めた。このことから、応募者数の大半を占める伊万里市内居住者にとって、「橋に込めた思い」は、「土地の名前」と密接に関係していることがわかる。

応募数が一番多かった七ツ島に込められた思いは、現在の七ツ島工業団地ができる前は「七ツ島」と言われる岩があったところで元の名残を残したい、後世まで語り継がれて欲しい、覚えやすく親しみやすい橋梁名称と言った同様な意見が多数あった。

二番目に応募数が多かった黒川に込められた思いは、シンプルに地元の人が覚えやすいから、ここは黒川町だから等の意見があった。

表-3 応募があった橋梁名称

橋梁名称	読み	備考
七ツ島大橋	ななつしまおおはし	20件/131件 (15%)
七ツ島大橋	ななつしまおおはし	
ななつ島大橋	ななつしまおおはし	
七つじま大橋	ななつしまおおはし	
七ツ島大橋	(通称)セブンブリッジ	
黒川大橋	くろかわおおはし	7件/131件 (5%)
くろがわ大橋	くろがわおおはし	

(3) 橋梁名称の選定

一般公募にて募集した橋梁名称を基に2022年2月に橋梁名称審査委員会を開催し、住民、市民団体、港湾関係者及び行政機関など、地元の代表である審査委員による審議を経て「七ツ島大橋(ななつしまおおはし)」と命名された。



図-6 橋梁名称決定記者会見

選定にあたっては、応募があった橋梁名称案の中から地域に親しみ愛される名称となるため、各応募者の橋梁名称に込めた思いを踏まえつつ決定した。

4. デザインパネル

来訪者、観光者にも地域の特徴や魅力を感じてもらい、地域振興及び地域活性化に繋げる手段の一つとして、橋梁用高欄にデザインパネルを設置する事例も見られる。今回の七ツ島大橋の整備においても、伊万里市協力の基、デザインパネルを活用したまちづくりを実施することとし、各径間に1枚の合計8枚設置することとした。図-7ここで、起点部及び終点部については、橋名板を設置するためデザインパネルは設置しないこととした。図-8

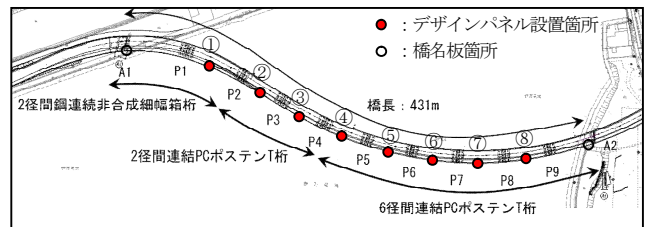


図-7 デザインパネル設置箇所



図-8 起点部及び終点部の橋名板

各デザインのテーマは、伊万里市が地元黒川町と調整の上、下記のとおり決定した、

- ① 家読の里 黒川町
- ② 若宮神社
- ③ 竜宮社の藤棚
- ④ 伊万里湾大花火大会
- ⑤ 在りし日の七ツ島
- ⑥ 大平山からの展望
- ⑦ 夢みさき公園
- ⑧ イマリンビーチ

その中で黒川町民憲章として、「1. 海と山に囲まれた自然豊かな黒川町を大切にします. 2. 人と人が繋がりをあえる黒川町を目指します.」を掲げており、地元黒川町の特色を表すデザインとした。

デザインの素材については、決定したテーマを基に、伊万里市HPにおいて一般公募を行った。

応募のあった素材の中から、地元の意向、思いをデザインパネルに込め、地元のみならず、来訪者、観光者にも地元黒川町の魅力が伝わる内容となっているか、伊万里市と地元黒川町により選定され次のデザインに決定した。



図-9 デザインパネル ③竜宮社の藤棚



図-10 デザインパネル ④伊万里湾大花火大会



図-11 臨港道路全景

5. おわりに

本論文では、橋梁名称の選定やデザインへの取り組み等について述べた。橋梁名称公募においては、県外からの応募や、20歳未満からの応募が多かったりと、広く七ツ島大橋の整備に関心が持たれていると感じた。その中で、地元への思いや土地の名前、郷土史に因んだものが橋梁名称として名付けられ、デザインパネルについても、橋梁名称と同様に地元の思いを込めてデザインを選定することにより、地域の感性を取り込むことができた。また、観光立国を推進している今日、インバウンド観光の増加も踏まえた良好な景観形成への要請もますます高まってきていることから、高欄の色彩及び橋名板の書体についても、付近の黒川橋と統一することにより、周辺の景観等にも配慮した。

公共インフラは、交通・輸送手段等としてのみならず地域の生活の中心にあり、地域生活者に深く関わるものであるため、¹⁾ これからの公共事業は、地元の思いに連動、反映させたデザインや景観に配慮して進めていくことは重要であると考えます。

謝辞：橋梁名称及びデザインパネルの決定にあたり、伊万里市をはじめ、協力していただいた関係各位の皆様へ感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 道路のデザインに関する検討委員会：景観に配慮した道路附属物等ガイドライン